

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

今井 智子

石坂 郁代

内田 信也

宇野 彰準

勝木 紀子

倉内 紀子

倉智 雅子

佐藤 睦子

椎名 英貴

城間 将江

鈴木 恵子

中村 光一

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

本年も酷暑の夏となり、地球温暖化の影響をひしひしと感じています。

今号は、6月28・29日に大分市で開催された第20回日本言語聴覚学会(木村暢夫会長)の事後抄録特集号です。本学会は令和になって最初の学会で、多彩な分野から興味深い研究が多数発表されました。

言語聴覚研究は多様な観点から行われますが、その主なものは各種障害の発生メカニズム・病態・治療法などの探求、健常な言語聴覚過程の追求、有病率とその関連要因の分析、その時代に要請される言語聴覚療法の提供システムや効率性の検討などです。今学会のメインテーマは「私たちの地域包括ケア」であり、少子高齢化のさらなる進行や医療福祉財源の確保が課題となっている社会状況を踏まえて、言語聴覚療法のあり方を検討した発表が多かったように思います。このような研究はその結果の検証可能性や客観性を担保することが必ずしも容易ではありませんが、真に社会に貢献できる新たな知見を生み出すにはこの努力が重要と考えられます。

今号には、学会抄録のほか第10回言語聴覚研究優秀論文賞の発表、原著論文1編、調査報告2編、レポート「現場最前線」が掲載されています。今回の優秀論文賞は2名の新進気鋭の若手研究者(橋本幸成氏、中尾雄太氏)に授与されました。原著論文は、昨年度に優秀論文賞を受賞された佐野剛雅氏がそれに続く論文を投稿されました。調査報告では、言語聴覚士の業務実態のほか、熊本地震における聴覚障害者への取り組みが報告されており、災害時の言語聴覚療法について有用な情報を得ることができると思います。また現場最前線では、カンボジアの摂食嚥下リハビリテーション・プロジェクトに参加した言語聴覚士の活動が掲載されており、国際協力的一面を知ることができます。

いずれも読みごたえのある内容ですので、是非ご一読ください。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第16巻 第3号) 2019年9月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 本体2,000円+税

2019年年間購読料: 本体7,407円+税(4冊, 送料発売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2019, Printed in Japan

制作・発売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)